

第49回卒業・修了制作展／美術科

2月15日から20日まで、大分県立芸術会館で、美術科の卒業・修了の作品展を開催しました。

音楽と美術の芸術系2学科は今年創立以来半世紀、節目の年です。

美術科では新しい先生を迎え新設されたプロダクトデザインの学生による家具の作品も加わり、商業ポスターやCGアニメ作品のビジュアルデザイン、食器からオブジェ作品までの陶芸、染めと織りで平面や立体、オブジェをインスタレーションする染織、日本画、油彩画、ミクストメディアの絵画、立体作品、人体塑像の彫刻、など、各コースで2年間学んだ学生の卒業制作、そしてさらに専攻科で2年間、制作に励んだ修了作品を展示し、多くの観覧者の方々に御覧いただき高い評価をいただきました。

今年も各コースの優秀作品を大学が買上げ、約40年間のコレクション、340点余の収蔵作品に、新たに加えられました。

今年7月から、本学創立50周年記念展として、それら新旧の作品の一部が大分空港ロビーの展示を皮切りに、芸文短大竹田キャンパス、中津市の小幡記念図書館、日田市のバトリア日田等、県内各地を巡回し、11月には県立芸術会館2・3室で、美術科歴代と現職の教官作品の展示が予定されています。

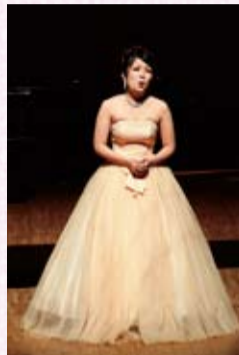


第49回卒業演奏会・第27回専攻科修了演奏会／音楽科

3月21日に第49回卒業演奏会、3月22日に第27回専攻科修了演奏会を、iichiko音の泉ホールで開催しました。卒業演奏会は15名、終了演奏会は10名の声楽・ピアノ・管弦打それぞれ各コースから選抜された学生が出演しました。一人ひとりの2年間の学修の成果、音楽的成長のすべてを披露する、その一夜限りの演奏は、演奏者の想いと、その想いを聞こうとする聴衆によって、独特の熱気に包まれた演奏会になりました。

また理論コースの卒業研究及び専攻科修了研究発表が2月15日に行われ、卒業研究9名、修了研究1名が、長い時間をかけたそれぞれの研究テーマに基づく熱のこもった発表を行いました。

3月3日には作曲コース3名による卒業作品の演奏発表が学内小ホールで行われ、ピアノソロや、異なった編成やスタイルの作品が演奏されました。



▲第49回卒業演奏会

▲第27回専攻科修了演奏会

2年間の集大成 — 卒業研究発表会／国際文化学科



平成22年度「国際文化学科卒業研究発表会」を2月7、8日に行いました。「スペインの巡礼」「大分の石橋について」「地球社会における捕鯨問題に関する研究」「ポスターにみる企業戦略」「World Heritage Sites in U.S.A.」「川端康成『雪国』における女性について」など、発表の内容は、学際性ゆたかな国際文化学科の特徴を反映して、非常に多岐にわたるものでした。2年生は、自分たちで選んだテーマを1年かけ深め、必死の思いで論文へと結実させた成果の集大成ということもあって、幾分、緊張した面持ちでした。しかし、発表が終わった後には、達成感と解放感から、みんな充実した笑顔を見せていました。当日は、中山学長や鈴木教務学生副部長にも聴講していただき、貴重な意見をもらうことができました。

内容は、学際性ゆたかな国際文化学科の特徴を反映して、非常に多岐にわたるものでした。2年生は、自分たちで選んだテーマを1年かけ深め、必死の思いで論文へと結実させた成果の集大成ということもあって、幾分、緊張した面持ちでした。しかし、発表が終わった後には、達成感と解放感から、みんな充実した笑顔を見せていました。当日は、中山学長や鈴木教務学生副部長にも聴講していただき、貴重な意見をもらうことができました。

学科全員参加！卒研究発表会／情報コミュニケーション学科

情報コミュニケーション学科は、2月7、8日の2日間にわたって、13のゼミ生が、1年間の研究成果を発表。4月入学予定の高校生も20名以上参加し、全学科生が大講義室に集まり、時には鋭い質問を投げかけました。メディア・情報科学・心理・社会の4領域にわたって、136名の2年生が、76のテーマを掲げ、パソコン、インターネット、DVDを使って研究内容を分かりやすく解説、高校生からも「自分は十分に恵まれていることを自覚し、親にも感謝すべきだと思いました（教育学）」「心理学に興味がわきました」「日本の接客はしっかりしてるんだなと改めて思いました（社会）」「Happyということがとても伝わってきて、見ていて楽しい気分になった（メディア）」等の感想が寄せられました。

4つの領域それぞれの専門知識を単に足し合わせるのではなく、相互に掛け合わせることで、コミュニケーション能力を高め、より良い社会を構築する人材を育成することを目標の一つとして掲げる学科の特徴を様々な角度から示すことができた発表会。在学中に積極的に社会と関わった学生の研究が高校生から高い関心を集めていました。



竹田キャンパス

竹田市で「演劇」「オペラ」公演



2月20日、本学と竹田市の共催で、共通教育課目「創作表現」の履修者と音楽科声楽コースの学生による「ラファエロ」「コシ・ファン・トゥッテ」の公演が、100名近くの市民を集め、竹田市文化会館で実施されました。演劇には地元の小学生6名も出演者として参加、ジャグリング・サークルの妙技も交えての公演は「演劇もオペラも初めてでしたが、とても楽しく観賞させていただきました（30代女性）」「多くの竹田市民に見ていただきたい（50代女性）」といった温かい声援をいただきました。

学生6名も出演者として参加、ジャグリング・サークルの妙技も交えての公演は「演劇もオペラも初めてでしたが、とても楽しく観賞させていただきました（30代女性）」「多くの竹田市民に見ていただきたい（50代女性）」といった温かい声援をいただきました。

オペラハイライト「コシ・ファン・トゥッテ」

今回私は、職員として学生たちを見守り業務に携わってきた。音楽稽古や演技練習、衣装の制作から舞台進行等、学生たちは自発的に行ってきた。本番までにこれらが全てスムーズにいったわけではない。音楽をする上で、あるいは準備の段階での意見の対立。多忙な中体調を崩す者もいた。オペラの本番はおよそ1時間程度だが、そのわずかな時間に費やしてきた膨大な練習量、努力や葛藤の日々。華やかな舞台裏を知るだけに、私は終幕のカーテンコールを涙無しでは見る事が出来なかった。

本番は、照明やプロジェクターを駆使し、字幕を投影。まるで、舞台上で1本の映画を上映している感覚だった。自信を持ち堂々と振舞う姿は、「学生」ではなくもはや「役者」であった。このひたむきな姿に、多くの聴衆より温かい拍手と賞賛の声をいただいた。

これからもっと芸文短大コンサートのファン層が増し、遠方からもお客様に来ていただけるような演奏会を、学生・教職員一丸となり作っていきたい。
(音楽科副手 後藤明日香)



竹田キャンパス通信

まだ朝晩は冷えますが、ようやく暖かくなり、昼間は日向ぼっこでまったりとできる季節になってまいりました。何はともあれ、この竹田キャンパスもたくさんさんの学生に利用されて1年が経とうとしています。

最近では、2月下旬、3月下旬にグループ展を行う卒業生達が、制作場所として、この竹田キャンパスを利用しております。みんなそれぞれの場所で夜な夜な制作をしているとなんだか学生の時の卒業制作のようで懐かしく、そして楽しい気分になっていきます。やはり制作は一人で引きこもってするのでは無く、みんなに刺激をもらいながら楽しくあるべきだとつくづく感じました。また校長室をギャラリーに改築（写真）しましたので、地域の方々や来客者に学生達の作品をみてもらい、アートを身近に感じてもらえる場所になればと考えております。

竹田も暖かく過ごしやすい季節になってまいりましたので、楽しむ場として、どうぞこの竹田キャンパスを御利用下さい。
(美術科非常勤講師 前田亮二)

